

持続的な企業活動を行うためにCSR活動を積極的に推進します

企業が持続的に成長していくためには、企業が、自社のステークホルダー（お客様、従業員、お取引先、株主、行政・地域社会など）との相互理解や信頼関係を築きながら、その社会的責任を果たしていくことが常に重要と考えております。

当社では、社訓・企業理念に基づく経営方針のもと、関係部門長で構成するCSR推進委員会で方向性などを決定し、全社および各事業所で具体的な活動展開を図っています。活動分野はリスクマネジメント、品質保証、情報開示、労働（人材育成、安全衛生など）、社会貢献、環境保全などとなっております。

当社は、これからもCSR活動の充実に向けて、さらに積極的に取り組んでいきます。



代表取締役副社長
CSR推進委員長

山口 努

東日本大震災 ニッパツグループへの影響

3月11日とその後の状況

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震では、横浜でも震度6弱のこれまでにない大規模な揺れを感じました。公共交通機関はほぼ全面的にストップし、多くの従業員が徒歩で帰宅したほか、同一方向に自宅のある従業員はマイカー通勤者に同乗させてもらうなど、大きな影響を受けました。

当社およびグループ会社各社について、従業員の人的な被害はありませんでした。

また、建物や設備についても甚大な被害はありませんでした。しかしながら、従業員の実家や親族などで被害に遭われた方もいました。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

当社は3月14日、災害対策総本部を本社内に設置しました。毎朝、災害対策総本部に情報が集められ、各事業所の状況把握を

行いました。この日より、計画停電が実施されることとなったほか、お客様、サプライヤー、物流などの様々な要因により、随時、状況を見極めながら、稼働の対応を行っていくこととなりました。群馬、厚木、伊勢原の各工場では計画停電が実施されたため、時差稼働や停電時間中の待機などで対応を図りました。

社長メッセージとニッパツグループの対応

こうした中で、玉村社長は全従業員に向けて、「必ずトンネルは抜ける。『今、やれること』『今だから、やれること』を洗い出してほしい」と訴えました。また、当社グループから4,000万円、共済会から1,000万円の義援金を送ったほか、従業員や役員、会社OB

などからも募金を行いました。

2011年7月からは、電力削減への協力のため、自動車メーカー各社などに合わせ、多くの工場で木・金曜を休日、土・日曜を出勤日とする対応を行いました。9月末まで継続する予定です。

また、地震およびこれにともなう津波や原子力発電所など大きな影響がありました。お客様、サプライヤーをはじめ関係行政機関などとも緊密に連絡を取りながら、グループ一丸となって一刻も早い復旧に向けた活動を進めています。